

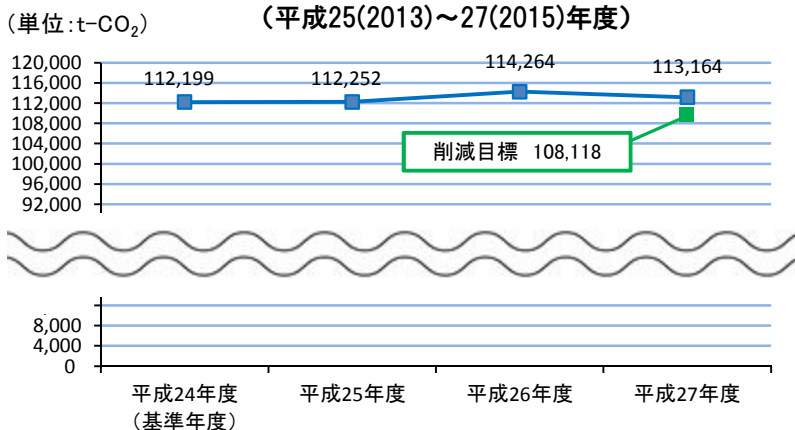
IV-1-(3) 温対法及び温対条例に基づく温室効果ガス削減の取組

上水 工水 下水

取組概要	進行管理の指標	平成27(2015)年度の取組結果		
<p>○温対法及び温対条例に基づき、特定排出者・特定事業者として温室効果ガス排出量について所管官庁への報告等を行う。</p> <p>○温室効果ガス削減に向け、設備更新に合わせた高効率型機器の採用などの取組を進める。</p> <p>○温対条例に基づく第2期計画期間（平成25(2013)～27(2015)年度）における温室効果ガスの削減目標 平成24(2012)年度⇒平成27(2015)年度 約4,000t-CO<sub>2</sub>（約3.5%）の削減</p>	<p>○温室効果ガス削減に向けた取組を実施</p>	<p>○設備更新に合わせた高効率型機器の採用</p> <p>※雨量の増加等、温室効果ガス排出量が若干増加したが、高効率型機器の採用を計画的に進めている。</p>		
		<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>C</td> </tr> </table>	評価	C
評価	C			

今後の取組
<p>○上下水道局全体での温室効果ガスの削減に向けた取組を継続実施</p>

第3期計画期間における温室効果ガス排出量の推移  
(平成25(2013)～27(2015)年度)



IV-1-(4) ISO14001認証取得・更新

上水 工水 下水

取組概要	進行管理の指標	平成27(2015)年度の取組結果		
<p>長沢浄水場においてはISO環境方針に沿って、年度ごとに環境目標を定め、その達成に向け行動するとともに、環境マネジメントシステムの継続的改善に努める。</p>	<p>[全部門共通目標]</p> <p>○電気使用量削減（平成26(2014)年度並み）</p> <p>○コピー用紙及びOA用紙の使用量の削減（平成22(2010)年度並み）</p> <p>○廃棄物のリサイクル化（平成27(2015)年度まで現状維持）</p> <p>○グリーン購入の推進（100%）</p>	<p>○電気使用量2.1%増加</p> <p>○コピー用紙使用量及びOA用紙使用量5.8%削減（平成22(2010)年度対比）</p> <p>○廃棄物のリサイクル現状維持</p> <p>○グリーン購入100%実施</p>		
		<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>B</td> </tr> </table>	評価	B
評価	B			

今後の取組
<p>○ISO14001※認証の取得・更新を継続</p>
<p>※ISO14001 組織活動が環境に及ぼす影響を最小限に食い止めることを目的に定められた環境に関する国際的な標準規格</p>



ISO14001:2004 認証取得

## IV-2 環境技術の研究開発及び活用

### IV-2-(1) 下水道技術の研究開発

上水 工水 下水

取組概要	進行管理の指標	平成27(2015)年度の取組結果
<p>○東京湾における環境基準の達成・維持や富栄養化対策として、高度処理施設を効率的に整備するため、既存施設を最大限に有効活用する高度処理技術の開発を進める。</p> <p>○循環型社会の構築に向けて、下水汚泥を資源やエネルギーとして利用する技術の開発に取り組む。</p> <p>○新たな下水道技術の研究開発に取り組み、地球温暖化対策や省エネルギー対策を進める。</p>	<p>○担体利用高度処理法のエネルギー削減に関する技術開発</p> <p>○汚泥焼却工程における温室効果ガス排出量の削減に関する技術開発</p> <p>○安定的な下水汚泥圧送機能の確保に関する技術開発</p> <p>○下水汚泥のエネルギー利用等に関する技術開発</p>	<p>○入江崎水処理センター西系において、好気槽における流入方式を直列から並列に変更した場合を想定し、スクリーン空気量の削減に向けた調査を実施</p> <p>○入江崎総合スラッジセンター焼却炉において、一酸化二窒素と窒素酸化物の削減効果を確認する試験を実施</p> <p>○圧送管内部の調査、洗浄技術の適用性評価、更新手法等の検討の実施</p> <p>○下水汚泥燃料化物の製品品質の安定性の確認、製造方法、臭気対策や設備仕様等の検討の実施</p>
		<p style="text-align: center;"><b>評価</b> <span style="float: right;"><b>B</b></span></p>

#### 今後の取組

○汚泥処理関連施設及び水処理関連施設の運用における課題解決に向けた調査・研究の推進

○下水道施設における運転の高度化に向けた調査・研究の推進



下水汚泥燃料化物の製造装置及び製造物



一酸化二窒素と窒素酸化物の削減効果を確認する試験設備

### IV-2-(2) 環境技術を活かした国際貢献の推進

上水 工水 下水

取組概要	進行管理の指標	平成27(2015)年度の取組結果
<p>○世界の水環境改善に向けた官民連携による国際展開及び技術協力による国際貢献</p> <p>○川崎国際環境技術展への出展等による環境情報の発信</p>	<p>○官民連携による国際展開</p> <p>○専門家派遣及び研修生・視察者の受入れ</p> <p>○川崎国際環境技術展等国際展示会への出展</p>	<p>○ベトナム国バリア・フンタウ省において、かわさき水ビジネスネットワーク(かわビズネット)会員と川崎市が官民共同調査を実施</p> <p>○かわビズネット会員企業への水ビジネス創出に向けた情報提供</p> <p>○独立行政法人国際協力機構(JICA)「ラオス国水道公社事業管理能力向上プロジェクト」への短期専門家の派遣(3名)及びラオスで開催された国際セミナーに参加</p> <p>○海外からの研修生・視察者の受入れ(18か国・地域189名)</p> <p>○国土交通省から認定された「水・環境ソリューションハブ」のハブ都市として、海外からの要人や研修生に下水道技術の情報を発信</p> <p>○かわビズネット会員への情報提供及び川崎国際環境技術展等の各種イベントでかわビズネットの活動PRを実施</p>
		<p style="text-align: center;"><b>評価</b> <span style="float: right;"><b>B</b></span></p>

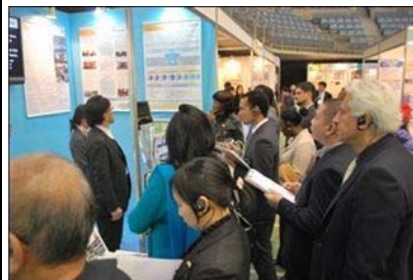
#### 今後の取組

○かわビズネットを通じ水ビジネスの実現による世界の水環境改善への貢献を目指すため、案件形成に向けたサポート等に取り組む。

○上下水道分野における専門家の派遣や研修生の受入れなど技術協力による国際貢献を推進し、海外への技術移転に取り組む。

○川崎国際環境技術展など国際展示会への出展等を通じ、環境への取組やかわビズネットの活動等について国内外への情報発信に取り組む。

○「水・環境ソリューションハブ」のハブ都市として、入江崎水処理センターなどを活用しながら、下水道分野における環境技術の海外への情報発信に取り組むほか、長沢浄水場において、水道・工業用水道分野の環境技術に関する国内外への情報発信に取り組む。



川崎国際環境技術展2016での情報発信の様子



ベトナム国バリア・フンタウ省コン・ダオ県での現地調査の様子